愛知教育大学附属高等学校研究紀要第 49 号
pp.99～105（March, 2022）

「国語総合」における文学的な文章を読み深める学習指導

国語科　横井　健

平成 30 年告示の高等学校学習指導要領においては，汎用的なスキルの育成が重視され，国語はその基盤とされている。実社会・実生活に生きて働く国語の能力に重きが置かれているが，一方で「文学」でしか育むことができない能力についても目を向ける必要があると考える。高校国語に於ける文学的な文章教材の可能性について考えたい。

＜キーワード＞　文学　国語総合　富嶽百景　富士山　高大連携

１　はじめに

新学習指導要領では，国語科において育成すべき資質・能力を「国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力」をとし，社会生活の中で活用できる言語能力の育成を求めている。社会生活に応用できる汎用的な能力の育成が重視されていることに加え，「国語総合」（標準単位数４）における近代の小説や詩歌の学習内容を新教科「言語文化」に寄せ，古典分野も扱いながら，その標準単位数を２としている。それゆえ，「文学軽視」との批判もある。以下は「国語総合」の授業において，新指導要領の「言語文化」を見据え，文学的教材を活用し，「主体的・対話的で深い学び」を実現し，作品の「内容についても解釈が深まることを実感させ」(註1)，文学的な文章によって育成すべき資質・能力と文学教材の可能性を考える試みである。

２　実践にいたる背景

新学習指導要領の「目標」における「社会生活に必要な国語」について考えたときに，そもそも「文学」は社会生活に必要か，という疑問が生じる（例えばキャリア教育における国語。註1）が，学習指導要領改訂当時の文部科学省教科調査官だった田中孝一氏は，文学的な文章が軽視されるとの声に対して，「国語科にとって，優れた文学作品を学習の素材として扱うことが大切であることは他言を要しない。答申が求めているのは，従来のように，国語の授業時数の過半を文学的な文章の読解に割いたり，一文学的な指導に何十時間もかけて，心情追求にこだわるような授業を繰り返したりするようなことはやめてほしいということである。」(註2) と述べ, 改めるべきは教材ではなく指導の在り方だと強調している。そうであれば，現在の『国語総合』の教材を活用して，新学習指導要領で求められている資質・能力の育成を試みることもできるはずである。本実践は，文学教材を用いた授業の教育的意義を確認し，文学（の言葉）で育成できる資質・能力を示すための試みである。

３　授業の概要と指導計画

私はこれまで，「現代文」の授業に対する関心を高め読解力の向上を図るとともに，文学テクストの言説分析および構造分析を通して論理的思考力を身に付けさせることを目標とし，奥田浩司愛知教育大学

教授とともに３年生の対象に高大連携授業を行った（本校『研究紀要』第45号，47号にて報告。[註3]）。それらの取り組みを基にして，次期学習指導要領で「言語文化」を履修する学齢である１年生を対象として，文学的な文章教材とした授業の意義を確認したいと考え，以下のよう習指導計画を立案した。授業の実際（細案）は令和3年12月8日の実際は研究授業で実施したものである。なお，指導案の作成にあたっては，国立教育政策研究所の大滝一登視学官，髙辻正明視学官のご助言を頂いた。

単元計画

Ⅰ　単元名　作品の解釈を深める（「読むこと」）

太宰治『富嶽百景』を用いて，「富士山」の意味づけを読み解くことで作品の解釈を深めるとともに，既習の『伊勢物語』（東下り）の知識と関連づけ（[註4]），近現代と古典の表現のつながりについて理解する。

２　単元の目標

文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わおうとする。（関心・意欲・態度）

文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わう。（（読む能力）（C　「読むこと」の（1）のウ）

文や文章の組み立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かにすること。（知識・理解）（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の（1）のイ（イ））

３　単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
伝統的な言語文化への興味・関心を広げようとしている。文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わおうとしている。	文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わっている。	文や文章の組み立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かしようとしている。

４　単元の全体計画

	主な学習活動	◆指導上の留意点　◇評価規準（★「言語文化」）
一次 １，２時	「富嶽百景」（太宰治）の全体を通読し，「私」の心情の変化を理解する。 一人称の作品の特徴について考える。 ・テクスト論の基本説明を行う。 ・「富嶽百景」を通読し，初読の感想を書く。 ・不明な語句の意味調べをする。	◆「私」の心情と「富士山」を巡る表現に注意を向ける。 ◆「語り手」について着目させる。 ◆初読の感想を共有し，生徒個々の読みの深さを意識させる。 ◇「私」の心情の変化を読み取っている。（読　ワークシート） ◇語句の意味を理解している。（知　行動観察）
二次 3，4，5 時	・出来事と「私」の関心，心情の変化について読み取り，全体の構成を確認する。 ・本文における比喩や「富士山」象徴性を読み取る。	◆ワークシートや「富士山」の画像を活用する。 ◆「私」の心情の変化が「富士」の受け止め方への変化に関連していることを確認する。 ◇「私」の心情の変化を理解している。（読　ワークシート，発言）

三次 6時	・作品全体を通して，「富士」に関する「私」の意識の変化を確認し，自らにとっての「富士」的なものを探し，考察する。	◆ワークシートや評価シートを活用する。 ◆グループで考えさせる。 ◇「私」の心情と「富士」の関係性，「私」の変化と他の人物との関わりについて考察している。（読　ワークシート）
四次 7,8時（本時）	・愛知教育大学国語教育講座奥田浩司教授の講義で文学理論の基本と大学での学びとの連続性について学習する。 ・「富士」がコノテーションであることを理解した上で，自らにとっての「富士」的なものについての考えを深める。 ・古文における「富士山」の描かれ方を確認し，比較検討する。	◆テクスト論の基本について理解する。 ◆コノテーションについて，理解する。 ◆他の時代における「富士山」の描かれ方との比較を通して，読みを深める。（古文における「富士山」の描写については，既習。） ◇「富士」がコノテーションであることを理解し，他の表現の理解にも活用しようとしている。（読　ワークシート，発言） （★文章の意味や表現は，作品の文脈の中で形成されることを理解している　知・技,作品や文章に表れているものの味方、感じ方,考え方を捉え,内容を解釈している。　思・判・表）
五次 9時	「富士」的なものの発表と相互評価	◆ワークシートや評価シートを活用する。 ◆グループで考えさせる。 ◆自己評価と相互評価を行う。 ◇単元の学びを通して，文学的文章の解釈が深まることを理解している。（関・読　ワークシートおよび評価シート）

5　授業の実際（8／9時間）

本時の目標

相対化・コノテーションを軸に，「富士」の意味を再検討する。

文章の意味や表現は，作品の文脈の中で形成されることを理解する。

学習活動	指導上の配慮事項など	評価の観点
導入　5分 本時の目標を確認する。	前時までの内容を踏まえ，「富士」がコノテーションであることを確認する。「富嶽百景」の時代には「大和魂」と結びついていたことに注意する。	

展開　35分 「富士には月見草がよく似合う」について，再度検討する。 「二人の姿をレンズから追放して、ただ富士山だけを、レンズいっぱいにキャッチして」写真を撮った理由について考察する。 「酸漿に似ていた」について考察する。	・「月見草」について，「富嶽百景」において偉大で聖なる憧れの対象としてだけではなく，か弱く純粋なものにそっと寄り添う包容力にあふれた存在としてのコノテーションを追加されたことを確認する ・「真ん中に大きい富士、その下に、小さい罌粟の花二つ」の対比構造を意識させる。 　罌粟…カラシナやケシの種子がきわめて小さいところから、きわめて小さなもの、また、ごくわずかなもののたとえに用いる。 「富士山だけが大きく写っていて、二人の姿はどこにも見えない。 「単一表現の美しさ」（素朴な、自然のもの、したがって簡潔な鮮明なもの） 　富士に対する見方が変わったことを確認する。 きっかけ「茶店の人たちの親切には、しんからお礼を言いたく思って」 「女児の玩弄物」（＝純粋） 　山々の後ろから控えめに見える富士の姿。 例）自然そのものの素朴な美しさ 　花言葉は「心の平安」（←コノテーション） 　（「いつわり、ごまかし」）	・本文中の表現に注目しながら問に答えようとしている。（行動の観察・ワークシート） ・他者との関わりが「私」の心情に変化を与えていることを理解する。（行動の観察） ・酸漿のコノテーションおよび文脈を意識しながら問に答えようとしている。
『伊勢物語』との比較 ５分	「伊勢物語」は「古今集」的和歌観は暦に忠実ゆえ、富士は「雅」なものでなかったことを確認する。「変な山」というコノテーション。時代によって同じ対象物でも意味が異なってくることを確認する。	「富士」をめぐる言説から時代の精神性を読み取れることを理解する。
本時のまとめおよび「富士」的なもの再考５分	読みの深まりを確認する。各自にとっての「富士」的なものを考え直す。「純粋」であることに留意させる。 「万葉集」や「新古今和歌集」における富士など，比較対象の紹介をする。大きな物語の中での変化と，個々の小さな物語の中での変化についてそれぞれ考えさせる。	

対象が１年生ということもあり，まずはワークシートを用いて，「語り手」を意識すること，比喩表現や情景の描写に留意すること等，文学的な文章を読むときの基本的な注意を随時行うこととした。第6次までに対話的な学び」を通して個々の読みを深めた上で，奥田先生にご協力頂き，それぞれの読解の根拠を再確認させること，各自の読みを相対化し多様な読みの可能性を実感することで発展的学習につなげるという試みである。教科書を通して学ぶ「富嶽百景」の理解にとどまらず，研究者による根拠に基づく読解の方法や外部テクストとの比較を通して，文学的教材の読解の幅を広げるとともに深い学びにつなげる実践としたいと考えた。

その上で，新学習指導要領（「言語文化」）で示されている「エ　作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ，内容の解釈を深めること」「オ　作品の内容や解釈を踏まえ，自分のものの見方，感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について自分の考えを持つこと」（参照「Ｂ読むこと　(2)

言語活動例」の「イ　作品の内容や形式について，批評したり討論したりする活動。」「ウ　異なる時代に成立した随筆や小説，物語などを読み比べ，それらを比較して論じたり批評したりする活動。」学習指導要領解説）へとつなげていけるよう，「富士」の受容をめぐる「伊勢物語」との比較を取り入れた。

４　生徒アンケートから（原文のまま抜粋。項目立てと下線は引用者）

読みの多様性（テクスト論の理解）

・ 現在は物語を読むことを筆者の意図を読み解く，分析の作業とするのではなく，読者自身が主体的に新たな考えや話を創造するものと考えるということを聞いて，私も同じ考えだと思いました。そちらの方が一読者として純粋に話を楽しむことができます。
・私は，自分の考えについて，周りの考えに惑わされないようにしたいと思いましたが，周りとは，違う考えを持とうとするより，周りがなぜそのような考えなのか，考えながら，自分では，どうするべきか，考えていきたい。
・奥田先生のお話はいろいろな切り口（新しい観点，これまで自分が考えたことのなかったような視点）から話を見ることばかりでこれまで気づかなかった新たな物語の見方，考え方を知る事ができました。
・富嶽百景で作者の考えを探るような読み方をしたが今回の講義で自分の世界を創って読む現代の読み方を知った。そしてその現代の読み方を使って作者の純粋さを考え，また純粋の中にある種類を考えたことでただその言葉だけで意味が伝わることがなくその言葉の背景も重要になって来るのだなと感じました。
・僕は今まで作者が伝えたい思いや願いだけを読み取っていたけど，自分で考えを広げることによって新たな思考やわくわくが生まれてくるのに気づき，とてもいいことだなと思いました
・講義の中で話されていた，「作者さえも想像していなかった解釈を提示するのが，読み手の創造性」という言葉を聞いて，作者の表したかったものが正解だと思っていた私とは違う考え方で，新鮮でした。
・昔の文学作品に比べて今の文学は作者の意図などはあまり関係なく，読み手がそれぞれの考えで作品を読み解いていくという自由な感じや読み手が創造者になれる作品へと変わっているということ。

「コノテーション」
・「富士」の中にあるコノテーションについて，まず，コノテーションという考えを初めて知った。デノテーションはその物のどこでも変わることのない，共通の意味で，その対義語であるコノテーションはその物から連想する意味だということが先生の講義に向けての資料から分かり，コノテーションはその物に対する感情や主観とイコールであるという意味が講義で理解できた。
・作品の中に出てくる「純粋さ」について，純粋さにも種類があり，富嶽百景と大和魂とでは異なる純粋さであったこと。デノテーション，コノテーションという言葉は知らなかったが，知らず知らず考えていたものだったこと。

読みの深化
・わたしは，娘や老婆の純粋さは思いやる“気持ち”の純粋さであり，大和魂は忠誠心などの“こころ”の純粋さであると考えていたので多少違うなと思いました。
・自分の考えと一緒だと感じたことはなかったが，大和魂の話はすごく納得できた。富嶽百景において

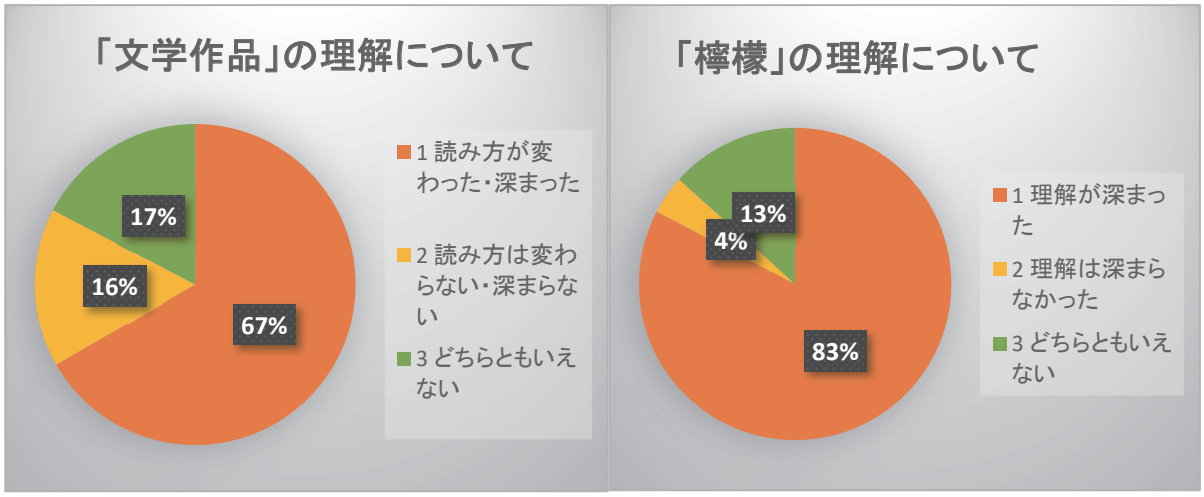
登場する人によって様々な純粋さがあることが納得できた。
・同じ言葉でも世間一般的な意味の捉え方とそうでない捉え方があるというのは自分も日常生活の中で感じることがあったことなので一緒なのかなと感じました。また，その意味の捉え方が人によって異なることがあることで，物語の捉え方も人によって異なるのかなと思いました。

反対意見
・作品を読むことは，作者が考えてもいないことを読み解く，新たな作品として生まれ変わる，作者の意図から自由になり，作品を創造的に読み解こう！　とあったが，その作品をどう捉えるかは読み手によって異なるし考え方が違うのは当たり前のことだが，もともとの原作中の考え方をベースにした上で，創造性を作っていくべきだと思った。

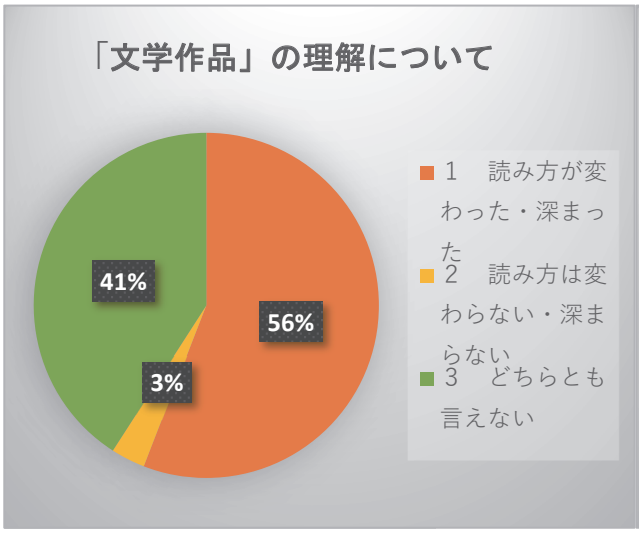
5　まとめと反省

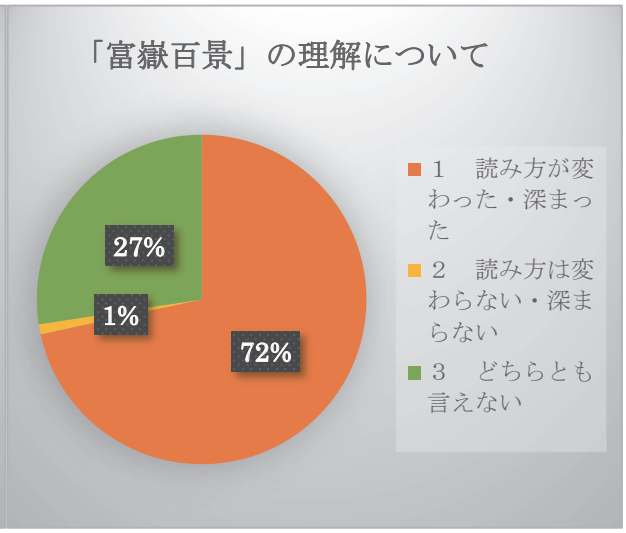
アンケートの記述内容から，多くの生徒が文学作品を主体的に読み解くことで作品の世界が広がることや，多様な読みがあり得ることを経験的に学んだ様子が伺え，授業の目標はおおむね達成できたと考えている。ただ，奥田先生からは「コノテーション」という概念を用いて「富士」をめぐる言説を整理する示唆を頂いたが，高校１年生にはいささか難度が高かったようである。授業をご覧頂いた文部科学省視学官の大滝一登氏からも，「コノテーション」のような用語を無理に取り入れなくとも今回の実践程度の読みの深まりは可能だったのではないか，また，専門用語への意識が先行して逆に読みの幅を狭めてしまう恐れもあるのではないかとのご指摘を賜った。教材は異なるものの，一昨年度までの３年生で実施した高大連携授業の事後アンケートと比較すると授業内容の理解に課題があったことが分かる（下のグラフ参照）。また，いずれの実践においても個々の作品の理解が必ずしも文学作品全般の読みの深まりにつながっているとは生徒に実感されておらず，改善の余地がある。

３年生「現代文 B」のアンケート結果（2017 年実施）



１年生「国語総合」のアンケート結果（2021 年）





註１　キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」の育成　平成 28 年 6 月 28 日教育課程部会　資料１

註２　田中孝一　「二十一世紀をひらく高等学校国語科教育の基本方向」（甲斐睦朗・田中孝一監修『高校国語教育－二一世紀の新方向』　明治書院　1999 年　p.17

註３　横井　健「高等学校『現代文 B』－安部公房『鞄』読解の試み－」　「愛知教育大学附属高等学校研究紀要」第 45 号　2018 年 3 月　および「高等学校『現代文 B』－梶井基次郎『檸檬』読解の試み－」　「愛知教育大学附属高等学校研究紀要」第 47 号　2020 年 3 月

註４　『伊勢物語』との読み比べを通した実践の効果については本校国語科の「国立教育政策研究所研究　教育課程研究指定事業の報告」として別にまとめて発表するため，本稿では割愛する。『伊勢物語』における「富士」の描かれ方を別の単元で学習し，本単元計画の第 4 次（8 時間目）で繋がることになる。